

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 日米協ギ (委)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): 日米協議委員会, 佐藤総理, 対沖縄援助 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43721

(12)

✳
10
田
41
10
13

5704 10 部

20 年 7 月

Confidential

Proposed Draft Agenda
for the tenth meeting of
the Consultative Committee
on Okinawa

September 30, 1966

1. Government of Japan Budget for
the Assistance to the Ryukyuan Islands
for JFY 1967.

2. Question of the flag to be flown
on Ryukyuan vessels

(Japanese side wishes to hear
the result of examination of this
matter on the U.S. side after the

previous meeting of the Committee,
and to request further favorable
consideration on the part of the
U. S. Government.)

16000912

昭34.36の並列の
下記各記を以てす。

空台の 予備費 1522775

而後の本邦代理物に換之

将平に對する代金を檢付あり。之に付定也。

台の建築に對する費用の取返をすべしと思ふなり。

特種な管理をなすべしとの本邦の意見あり。

此の費用の削減を以てするに依りて

incomeの爲に失却の代金を作らねばならぬ。

甲 勿論費を手付せし。

乙 近い日に提案の金額なり。

丙 今回に限りは換付せし。

丁 償還はあつたに代はれたらうと願ふにあり。

即償還を南にせし。

失却の政策的なものには非協定なり。

その間の換付を打切ると半政府の信託に依りて

知らぬし、半大の算出(報告)を以てして、

経緯¹⁵⁶² 空台の 本邦代理物に換付の内訳

の概況を 當分の内訳を以てして、

甲

乙 緊急対策の日→取上げ、南援を通ず

る方針に USCARに反対である、その為

公表しないは必要あり。

丙 緊急化 (ESTS) 的

丁 USCAR 新聞報道に反対

戊 目標は?

甲 10月12-13日は外務省と不都合

乙 空台は 14日 11時30分より IS/IS

丙 日時を決め、取上げは否かと思ふにあり?

何れも之に等しいと見做すに依りて

出い合の支拂、非協定に依りて

手付金あり。

丁 経費は 1005を越えざる事を以て、

12月までとす。

大蔵省との協力の必要あり。

山 ^{1800万ドル} 対岸の増資に足りた。

山 大蔵省の通関を待つ必要あり。

山 支那

山 大蔵省の意向 支那が200万ドル

の見込み

山 大蔵省との合意に支那の100万ドル
支。500万ドルの増資に割り当てる

山 支那 → 支那銀行 → 支那銀行

支那銀行の支店あり

山 大蔵省の増資に20 million
construction の計画あり

支那銀行の増資 台湾

増資不足 支那銀行

支那銀行の増資に100万ドル
増資に割り当てる

山 支那銀行の増資に100万

中. 支那銀行の増資に final agreement

増資に足りた

山. 支那銀行の増資に100万

1800

山.

2200

> 400 → 支那銀行

2400

1/20 → 支

支那銀行の増資に

中. 支那銀行の増資に

山. 支那銀行の増資に100万

支那銀行の増資に100万

増資に足りた

100万は支那銀行の増資に

山. 支那銀行の増資に100万

トフツルルハ合連キキ事連初ハ
 事連初ハ合連キキ事連初ハ

サ 中地ハ人ヲ招キ内(外)ニシテ其ノ前庭ハ
 (中) (外)
 9月29日 30日 中(外) 日誌

サ 9月 Agenda 日誌外内記シテハ
 日誌外内記シテハ
 (日誌外内記シテハ)
 日誌外内記シテハ

サ 日誌外内記シテハ
 Agenda 日誌外内記シテハ

日誌外内記シテハ

2,135

南援 自由貿易 2-1-1-1-1

サ 日・米・中 関係の件 日誌外内記シテハ
 日誌外内記シテハ

17 + 18 = 37

about 20 mil. 日誌外内記シテハ
 日誌外内記シテハ

7-1-1-1-1 1900

日誌外内記シテハ
 日誌外内記シテハ
 日誌外内記シテハ

日誌外内記シテハ

日誌外内記シテハ

日誌外内記シテハ

9月30日(金) 15:30 於 貴賓会館 中會堂
 出席者: 米側 ガン-ヴィ. アムストロング
 タラカワ
 日米側: 特選局長 林 経 務 長 古
 枝 村 北 米 務 長

特選局長より 同右作成資料(別添)につき 説明
 米側より 各項目の2内容につき 質疑応答

(*) FINANCIAL LOAN TO PRIVATE PERSON 概ね
 THROUGH GRI IS NOT PERMISSIBLE FROM
 VIEWPOINT OF PRESIDENT'S ^{ADMIN.} ORDER. NEVER HAD
 DEFICIT LOAN FROM OTHER GOV'T

GRI の DEBT は USA の DEBT である。

(甲) 日本 GRI を 1% 改正。
 (乙) T
 山 炭層を 含め 295% 増

1001-6078

741-0392

長期計画

(*) 宝古急増を 対策は 2005 11/5 に なるが
 (甲) 90% の 住宅建設 へ 10% の 増
 約 1 割 増 を 5%
 (乙) 前述 Loan の 不
 Loan は GRI に 限る はず 法律の 例 はず PRIVATE
 Loan は 出さぬ
 (丙) 米の respon. r. r. balance of payment
 元金 (利息は 持ち出しに なる 故)
 (丁) 貸付金は loan に せぬ はず だが 認めらる
 (戊) 日米側は 2005 年 まで 援助 - LOAN
 貸付 補正 予算 なる。

(己) 主席 米 側 2005 年 少年院 増設 増設 増設 増設
 (庚) 増設 中
 " 増設 の 事業 内容は? (1 億 7 千万)
 (辛) 3 億 の 2 貴賓会館

(壬) 所川に せよ 増設 1. 内容 詳細 の 管理 等
 増設 1.

★ Qid 0-部 e 12 考証 4 答 x

百 會 大 方 女 也 y 4 4 4 4. 5 e 53 2 4 4 1 1,

米 守 R-plane 提 出 加 1 0 6, 全 家 0 4 0 0,

金 1 5 大 . 大 . 3 e 2 4 4 4

study 1 2 (考 証 可 得 4 4 4 4)

2/3

Confidential

Proposed Draft Agenda
for the tenth meeting of
the Consultative Committee on Okinawa

September 30, 1966

- PRESENTATION OF U.S. PROPOSAL ON THE
1. Government of Japan Budget for the Assistance to the Ryukyu Islands for JFY 1967.
 2. Question of the flag to be flown on Ryukyuan vessels.
(Japanese side wishes to hear the result of examination of this matter on the U.S. side after the previous meeting of the Committee, and to request further favorable consideration on the part of the U.S. Government.)

十月二十六日
の
サ
レ
ン
タ
ス
キ
キ
リ
口
頭
で
合
意
す
る
旨
通
報
せ
ら
れ
し
事
由

Confidential

Proposed Draft Agenda
for the tenth meeting of
the Consultative Committee on Okinawa

September 30, 1966

- PRESENTATION OF U.S. PROPOSAL ON THE
1. Government of Japan Budget for the Assistance to the Ryukyu Islands for JFY 1967.
 2. Question of the flag to be flown on Ryukyuan vessels.
(Japanese side wishes to hear the result of examination of this matter on the U.S. side after the previous meeting of the Committee, and to request further favorable consideration on the part of the U.S. Government.)

秘
無期限

北米局長 〇〇〇
参事官 〇〇〇
北米課長 〇〇〇

7

昭和42年度日本政府の対沖縄
援助に関する第2回日米打合せ

11.10.3
米世

米大スミ(別添)

1. 本打合せは9月22日(木)の第1回打合せで合意した
日米側第一次案の提出を以て、9月30日(金)午後
(援助費90億、~~貸付金~~の融資5億+借入金10億)
費友会館を以て、(半側別)ガハ-V. Prustor-7
両大使館員とワシントン政府予算課長、及び日米
山崎特務局長、林同総務局長、古方子特務、中島中米
局参事官(故半側参加)、枝村中米局長、森山(出席)
2. 総理府側の提出した資料(別添)の各項目につき
日米両側の質疑応答を以て、録音、ワシントン局長の
沖縄に持ち帰り検討する事と成った。
3. 同資料中、特に内容については、次は次のとおり。
半側の日本政府からの LOAN について、半側は →

2026

琉球側と債務の当事者とは云々。施政責任者としての半
島の債務負担の責任を法的に負はねばならない

ニヒヒなるが、
~~本打合せ~~ 問題の難し、大統領行政命令で与えられた
米政府の権限外であるので、70%の請討が必要

ある。本打合せ、loan に対する元金返済は問題にはな
らぬ。その利子負担は dollar area からの持ち出しに
Financing

昭和42年3月23日、本打合せの内容を、本議会で報告した。本
~~打合せ~~ 結果を以て、本打合せの結果を以て、本打合せの結果を以て、
現在の国際収支をめぐり、本打合せの結果を以て、本打合せの結果を以て、

本年度援助計画作業に当り、合意については、難しと思はれ
と述べ、検討を約した。本打合せに前記の回答を以て
以上、以上

2月に対し、特務局長より、本年度援助の総額を
決定し、~~本打合せ~~ 貸付金と借入金の関係、~~本打合せ~~
に際して、本打合せの結果を以て、本打合せの結果を以て、

本打合せの結果を以て、本打合せの結果を以て、
本打合せの結果を以て、本打合せの結果を以て、
LOAN に対する事

は、おらあいと述べ、24に対する半側の早急な態度
決定方を要望した。又、同特選局長は、loanの

半側が受入れ不可能の場合は、日本側援助予算
案を再編成可能な総額95億円で

だつと述べた。先方が、このうち、空古急の復興
対策費はリスト中の *Disaster Control* と特掲

にある5億のうち、否か、かつ、(注)あり、暫く、
台風災害復興基金は他の項目にも算入して

述べた。先方は台風対策関係に当ててある
費用の金額を ~~提供~~ 提供を依頼した。

(特選局長等が内話したところによれば、民政府
と松岡主席との間で、空古急恒久対策を含め、

総額93億円で、貸付の付ていさ由であり、
圓の利付提案の援助融資を合々95億の数字
金

で、先方はホツとていさ由であるといふこと

4. 有地次回打合会は民政府による日本案の検討が
終了次第、10月8日以、開始されることになった。

(協議案の開始日を10月15日を目標とし、同委員会
では半側の援助計画案を提出するといふこと、

日米両者の合意した)

CONFIDENTIAL

PROPOSED FINANCIAL AID TO OKINAWA PROVIDED BY GOJ FOR JFY 1967

(Unit: thousand yen)
(Unit: thousand dollar)

Category	Aid Funds for JFY 1966	Estimated Aid Funds for JFY 1967	Increase or Decrease(-)	Description
援助費 Total Sum	¥5,800,000 (\$16,111)	¥9,060,000 (\$25,167)	¥3,260,000 (\$9,056)	
Agriculture, Forestry & Fisheries	1,024,000 (2,844)	925,000 (2,569)	-99,000 (-275)	About ¥400,000(\$1,111) in funds for Central Bank and GRI fishing vessel construction will be transferred to GRI loan.
Welfare & Labor	951,000 (2,642)	2,036,000 (5,656)	1,085,000 (3,014)	About 800,000(2,222) Aid to Daily Life Security Program: increase up to 80% at the same level of Japan proper. About 400,000(1,111) Aid to Old-age Pension: at the same level of Japan proper. About 400,000(1,111)
Education	2,867,000 (7,964)	4,182,000 (11,617)	1,315,000 (3,653)	About 1,000,000(2,778) School Teachers' Salary: about 800,000(2,222) of increase. Increase of authorized personnel and base up of their salary Last year: appropriated the amount of 10 months of salary This year: appropriated the amount of 12 months of salary Dispatch of Lecturers to Univ. of the Ryukyus: about 200,000(556) 宿舎費(教員用)等(中野病院)
Construction & Transportation	716,000 (1,989)	1,618,000 (4,494)	902,000 (2,505)	About 800,000(2,222) TV facilities: about 300,000(833) UHF(Telephone circuit to Sakishima): about 400,000(1,111) Meteorological radar in Ishigakijima: about 100,000(278)

教育費支給 27億74万
経費

Technical Assistance	73,000 (203)	125,000 (1,494) (347)	952,000 (144)
Nampo Doho Engo-Kai	169,000 (469)	174,000 (483)	5,000 (14)
Loans from GOJ Financial Funds	0	1,100,000 (3,056)	1,100,000 (3,056)
Transfer of a part of Aid Funds for JFY 1966 to the Loans	0	500,000 (1,389)	500,000 (1,389)
Funds for Private Schools	0	100,000 (278)	100,000 (278)
Disaster Control	0	500,000 (1,389)	500,000 (1,389)
Total	5,800,000 (16,111)	10,160,000 (28,222)	4,360,000 (12,111)

人員増加 借付 15% → 21%
 借付費 1.1億 + 5.4億 + 1.1億
 { 公団施設 (環状公園), 商業会館 etc.
 通商費 1.1億 + 5.4億 + 1.1億 (USCAR)
 Central Bank for Agriculture, Forestry, & Fisheries:
 360,000(1,000)
 Construction of fishing vessel: 50,000(139)
 People's Finance Corporation: 90,000(250)

GRI + 外国政府からの債務を返済する行政命令を contemplate されている。困難がある。(船舶米政府の債務返済)
 (以上が官公庁極限対策を列挙してあげると、出てくる。)
 手元、利息がある場合 no. payment の影響を受ける。
 本年は補正予算で若干の災害対策を投入するが、早く USCAR が採択される。

秘
無期限

北米局長

参事官

北米課長

沖繩援助問題に関する

枝村北米課長 ガーバー参事官会談録

41.9.6
米世

9月6日午後、米大使館ガーバー参事官は他用をかねて北米課長を参訪した際、次期日米協談委員会に関する

我々の考え方を述べたので、枝村課長より、山野特許局長は非公式な事務協談で充分に打合わせを行なうべき

援助関係の協談委員会の回数は2回で充分ではないかと考へている旨を述べた。我々は非公式な事務協

談は結構であるが、米側としては、また中盤参事官が7月27日付ガーバー参事官の回答を行なっているところ

と述べた。

枝村課長は、7月27日付の書簡で米側の意向は了解

GA-6

外務省

1781

しては、我々参事官の意向があり、その際の参事官及び民政府への応酬の結果、大分事情の変更があったのでは

ないかと述べた。我々は米側の正式の意向表示は~~米側~~外交手帳で行なわれたいものである。特許局

がUSCARと意見交換をする事は自由であるが、米側の公式態度は、依然、7月27日の書簡に示された通りで

あると述べた。

枝村課長より、米側にも、フランス法改正の見通しがまだ不明な限り、協談委員会に提案を行なうのは

ないかと述べた。我々は現在上院で審議中のフランス法改正案は、本会計年度に關するものであり、今秋協談委

で取り上げる本年度予算とは直接の關係がない。本年のフランス法改正の可否は来年度以降についての INDICATION

より得るが、それ以上の關係はないので、来年度上院が

GA-6

外務省

25百ドルの撥入法案を一旦否決した場合でも、明年1月の政府予算案はまたの所書簡のとおり、19百ドルの数字を提出することになる。従って半側としては今秋の協試委員に何かある場合にも半側援助は19百ドル(1500万)との前提で幅を考へてある。半側としては試合の成行きと関係なく、いつでも協試委員会開催に必要とするか、知亦に7月27日付書簡に対する回答があることを期待してあり、余りのSHORT NOTICEを用途には応じ難いことについて念を押し置く次第である、と述べた。ついで枝村課長より、再、フトン個別会談に於けるフトン発言についての半側の了解を述べた。これは我々の所知しているところでは、フトン事務官は明会計年度の沖繩援助の総額を37百ドルとあり、2はGRIにも通知済であるが、その内訳を半側が19百ドル、日本側

18百ドルとあるという構想を森長官に説明し、但し、フロンティア改正法案の否決の結果、半政府の要求が19百ドルに支出できないという最悪の事態となつた場合、その差額(12百ドル~19百ドルの差)を日本側のMAKE UP するお願ひするところである、と述べた。由である、と述べた。(当方より、これは半会計年度の話しであること確認した。これは半年度のことであり、今秋の協試委員は関係ない旨確認した。) 枝村課長より、森長官に於ける同会談でフトン高等事務官は日本側の援助金増加(3折の数字)を認め、^{の中}具体的数字(3折)を挙げ、意向を述べたこと、了解している旨指摘した。これは首を振り、カンキョウの記録では、同会談で具体的数字日本からの援助額の数字が話題となつたことは報告済みである、と述べた。3折(100億円以上)は30百ドル以上

に於けることと破れた上で、これは森長官が37百ドルの意
味を誤解されたのではないかと述べた。

枝村課長より、本件二春合談の色々の誤り理解
に於て、前記3折援助額に關するワトソンの発言が

上村副長官より、政務次官会談に報告された際、は
ワトソンが米邦政府にフランス法の上限を30百ドル

に引上げるよう要求する意向であると理解された報道とい
ている。また、森長官は教育税分償返還措置に

つてワトソン并務官は NOT TOTALLY NEGATIVE の態度
であったという証を、この二春合談から得られた摸

倣であると述べたところ、これはカンキの記録は施政権
問題には全然触れていないと述べ、今回の如き

二春合談は二度と繰返さぬよう沖縄にも報告あり
と述べ、森長官の如き高官に、合談中の数字を正確

に記憶するところを期待するのは無理であり、援助に
關する詳細な背景は両者とも知らないものであるから

高官の片方の話し合いは誤解の原因となるので
あると再度強調し、嘆息した。

これは最後に、半側自身のシニヤイフでの合談の
内容についての誤解を是正するとは検討しては
述べた。

秘
無期限

北米局長
参事官
北米課長

対沖繩援助についての在京米大使館
館員との協定について

[41.9.8]
北米課

9月8日開かれた北米局と在京米大使館
との定期協定の席上、対沖繩援助について、次

のとおり意見交換が行なわれた。
出/各局
北米課を以て
エマソンを以て

ガヘルンより、日本政府の対沖繩援助問題

について、協定委員会の前には非公式な
協定について、昨日森長官の意向を述べたところ、
行方なし

はこれに異議がなかり旨答えたが、

~~向分として~~、向分としては、この非公式協定は、特選

局と民政府との間のみならず関係者すべてが
参加すべきであること述べた。

北米課長より、その旨については、既に特選局
打合せ済みであり、特選局も非公式協定は、

外務省、特選局、在京米大使館、民政府のすべて
が参加することが望ましいこと^たは、~~我々としては~~
の考えである。

貴官より中島参事官より7月27日付書簡に對
する回答に先づいて、この非公式協定を行ないた

~~考えである~~
いと述べた。

ガヘルンは、特選局長は、非公式協定の前には

民政府と琉球政府との間に意思統一が計られ
ることが望ましいとの考え~~あり~~。向分としては、この
と承知している

考えは、建前上はおかしいと思うが、實際的な考
慮~~あり~~、民政府に伝え~~民~~政府もこれに同意
がらほ、やむを得ないと考えらるべき

し、琉球政府と更に話し合うこととしていた。この結
果非公式協定は9月末頃には³²な~~り~~と述べた。
を行なう後にはする

秘
無期限

北米局長
参事官
北米課長

手続部(北米課) 総務部
企画部 総務課
北米課長

沖繩における移住発給及び沖繩への
移住問題については在京大使館と
協定により

{ 4. 9. 8.
北米課 }

9月8日開催された北米局と在京米大使館
との定期協定の席上、沖繩における移住発給及び

沖繩への移住問題について、次のとおり意見交換
が行われた。(出席者: 北米局長、参事官、北米課長、総務課長、
イコロン参事、ザハール参事、マドナ参事)

当方より、週日マドナルド書記官が沖繩移住
問題に関するトキニグ、ヘーパーを指導して、

南運軍務所が移住問題を取扱うことに伴い、
南運軍務所の機能を拡大するため新たに公文の

交換を要することとなるや否やが問題になった
こと、これに対する我々の結論は公文の交

換を行わなければならないことである。その際、当方としては、

要約

移住問題及び移住問題に関する5月の協定
委員会における合意をもとに交換公文による確認

した。これにより、これは移住発給に関する特
例法を模範として、国内法の基礎となる

国合意が必須であること、これは協定
により、先方は、原則的に問題はないと思

うが、交換公文の内容は協定会議記録のワイド
を基に確認することとする。これは適当である

と述べた。

当方より、協定委員会記録、他南運軍務所
の取扱拡大に関する米側のトキニグ、ヘーパーの内
容に先方も追加し、これを述べたこと、先方もこれ
を承知した。

当方より、具体的には来週又は来週の詳細

に討議した」と述べたこと、先方は大まかに
検討しておく旨述べた。

中形紙

交換公文の全体 tone の

関係はあつて dal heng

paper = 紙と云ふは

特任事案因至却致函

の件も是非含めて

戴ておく (中形紙の後の)

紙の不利な事例

の事柄も是非

公文上の紙枚と紙比の

(真実と偽り)

米北才1345号

昭和41年10月13日

在米大使殿

外務大臣

沖縄問題関係資料送付について

沖縄問題関係資料下記のとおり別添送付
する。

記

1 沖縄帰郷者に対処失業保険金の給付実施計画

について

2 第10回日米協議委員会の議題案

(本件議題については米側も了承済み)

GA-4

付属添付

外務省

100 秋季 Agenda

附 3

9月30日米側に提案

後日、米側よりワシントン O.K. を待て旨通報あり

Confidential

Proposed Draft Agenda
for the tenth meeting of
the Consultative Committee on Okinawa

米
大
丁
4

September 30, 1966

PRESENTATION OF U.S. PROPOSAL ON THE

1. Government of Japan Budget for the Assistance to the Ryukyu Islands for JFY 1967.

2. Question of the flag to be flown on Ryukyuan vessels.

(Japanese side wishes to hear the result of examination of this matter on the U.S. side after the previous meeting of the Committee, ~~and to request further favorable consideration on the part of the U.S. Government.~~)

秘
無期限

北米局長
参事官
北米課長

沖繩に南米協成委員会
9日取りこみ。 昭和41.10.11
米北

沖繩に南米協成委員会9日開催は、
一応10月18日(火)9日開成後午前
11時30分からの見込みを以て、
大森秘書官に時間留保を依頼した。
OK
(大森は、必要があれば、開成を中止され
るという含み)

大臣秘書官
事務次官
外務審議官

北米局長
参事官
北米課長

極秘

沖繩に南米協成委員会
9日取りこみ。 昭和41.10.11
米北

10月11日北米局中島参事官を来訪の
ザハレン参事官は、沖繩に南米協成委
員会9日取りこみ。ワシントンと約1ヵ月
延期を示唆があったことは、さきに印連絡
のとおりであるが、中島参事官の感懐に
いかんが、ワシントンに函送を要請したこ
と。今後、ワシントンと協成委員会9日早期
開催を差し支えのない旨の連絡があった。
しかし、大使館およびUSCARには、米側
提案準備の都合上、成可く時間的余裕
が欲しい次第であると述べた。
これに対し、中島参事官より、外務大臣は

10月19日正午頃東京発 東南アジア諸国
使節9名出発予定。遅くも、10月18

日(火)には、協賛委員会を開催し、旨
答ふたは、ザンペンは検討を急し

た。(北米局長同席)

秘
まで

新聞発表(記者資料)の急務 14日
に之に依りて取止む。 10/13 11:47

大臣		北米局長
秘書官		参事官
事務次官	官房長 情報文化局長	北米課長
外務審議官	官房総務参事官	4/10.13 北米課
	官房書記	

沖縄援助に關する第10回
日米協議委員会の開催について

総理府特連局 および米大使館とも打合わせ
の結果、沖縄援助に關する第10回日米協議委員

会を下記のとおり開催するものとす。御参考まで。

記

開催日時 10月18日(火)午前11時30分より
議題 1. 昭和42年度日本政府対沖縄援助予算

に關する側案の提示 及び琉球籍
2. 船の船舶旗問題

出席者 (委員) 外務大臣、総理府総務長官、在米
米(臨時代理)大使

(随員) 北米局長、特選局長、米大使館参事官ほか

X 无

13日(木)午後4時 北米局長を来訪し、長官の挨拶は
10北 Con Com の準備について

1. 米側長官の挨拶は エアマン・ガール・アクトビ
経済部1名(北米大使館)、マーン、バーンス、タカワ
「」に confirm して OK. 22

2. マーンは委員会長席の体略を4 滞日、アガ
行務官の来日を待つ。

3. Con Com の長席相 米側長官と日米側委員長の
打ち合わせを3分 月曜日にやること。

4. 書類の準備は6回 米側に任す。

GA-6

外務省

秘
無期限

タイプ指示	発信用	執務用	計
主信	1	1	2
付	598. 添付		
印			

発送日 昭和41年9月13日
 発信 1188 校

文書課 公信案 (分頁)

公信 番号 米北 第 1188 号 公信 昭和 41年9月12日 日付

大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官 房 長

主 管 北米局長 参事官 北米課長 主任

起案 昭和 41年 9 月 10 日
起案者 森山 電話番号 671

受信者 北米 武田 大使 発信者 椎名 大臣

写送付先 (希望発送日) 月 日

件 名 沖縄援助問題に関する米大使館直の
会議録送付について

GA-2 12 117 外務省 回覧番号

米北才1188号

昭和41年9月12日

在米大使殿

外務大臣

沖縄援助問題に関し米大使館員

との会議録送付について

来会計年度の対沖縄援助に関し森総務

長官の訪沖の際のワシントン会議その他に関し等々

又、次期日米協賛委員会の開催時期、手帳等々

内々検討中であること、今般東件に関し米大使

館員と北米局との間で行った会議録(9月6日

枝村課長から参事官一別添1. 及び9月8日北米局米大

使館定期協賛一別添2)別添 参考資料送付済み

付属添付

秘
無期限

北米局長

参事官

北米課長

枝村北米課長がハルビン参事官会談
(中10国協議委員船籍問題)

4.10.13
羊 也

13日午後、枝村北米課長を参事官ハルビン大使館にハルビン
参事官は、中10国協議委員会の議題としての船籍問題

問題について次の如く述べた。

本件についてはソ連側の道路あり、米側の発言の
表現は「本件は現在検討中である」として複雑問題と

扱われるより検討を続ける積りである」ということと
本件は予め非公式に扱われることとした。

GA-6

外務省

2092

字、全漢録

14-105

要写 部

発信係 (小) 総第 42726 号
昭和 年 月 日 時 分 発

電信課長 電信案 (分類 41-10-14) 77-45

略 略 平	第 1634 号 (L-100)	起案 昭和 41 年 10 月 日
大 臣	主管 北米局長	
政 務 次 官	参事官	
事 務 次 官	北米課長	
外 務 審 議 官	主任	起案者 寿山 電話番号 671
官 房 長		

在 米 武 四 臨時代理 大 公 使 宛 稚 名 大臣 務 総 領 事

電 報 在 大 公 使 宛 総 領 事

件 名 沖 縄 以 南 日 米 協 議 委 員 会 (中 10 国) 開 催

沖 縄 以 南 日 米 協 議 委 員 会 (中 10 国 会 合) 本 大 使 館 へ 通 知 日 程

18日(水)午後11時30分ハルビン本省にて開催予定
在米大使館に打合せあり
決定し、14日午後発表した。

本 日 今 回 の 議 題 本 年 度 日 本 政 府 対 沖 縄

GB-1

外務省

回覧番号

14-105
字
濟

~~援助予算以內の半側提案~~ ^{古島} ~~宮古島災害対策~~
~~援助以內の半側提案~~ ^{古島} ~~沖縄船舶検査問題~~
~~予定に比し~~ ~~少額~~ ~~あり~~ ^{あり}

秘

北米局長
 参事官
 北米課長

沖縄以內の協談委員会(第10回会合)
 議事日程(案)
 昭和41年10月18日
 議事日程案
 1. 昭和42会計年度日本政府の対沖縄援助以內の
 半側提案(宮古島災害対策援助 ~~予定~~ ~~以內~~ ~~の~~ ~~半側~~ ~~提案~~)
 2. 沖縄船舶検査問題
 3. 新聞発表以內の合意

Confidential

ON OKINAWA

The 10th Meeting of the Consultative Committee

DRAFT AGENDA

October 18, 1966

ADOPTION OF AGENDA

1. ^{A.} U.S. PROPOSAL ^{FOR} ~~ON THE~~ ^{ASSISTANCE} GOVERNMENT OF JAPAN BUDGET
TO OKINAWA IN JFY 1967
FOR THE ASSISTANCE TO THE RYUKYU ISLANDS FOR JFY 1967.

2. QUESTION OF THE FLAG TO BE FLOWN ON RYUKYUAN VESSELS.

3. AGREEMENT ON STATEMENT TO PRESS

GA-4

外務省

The Tenth Meeting of
The Japan - United States Consultative Committee
on Okinawa
DRAFT AGENDA

October 18, 1966

Adoption of Agenda

1. (A). United States proposal for Government of Japan Assistance to the Ryukyu Islands in JFY 1967.
- (B). United States proposal for Government of Japan Assistance for disaster rehabilitation in the Ryukyu Islands.
2. The Question of the Flag to be flown on Ryukyuan Vessels
3. Agreement on Statement to the Press.

北米局長

参事官

北米課長

昭和42年度対冲援助に
関する琉球政府主席来費

41. 10. 20
米世

20日午後、釋沢 日米政府の対冲援助計画に
関し、外務大臣より琉球政府 松岡主席より下記

要報があった。(要報別添)

「18日、日米協定で沖縄財政援助について、100億台
の米割提率の通知に接し、甚だ堪へず。之れが実現

なければ、一層の御配慮をお願いする。」

琉球政府外政主席 松岡 政保

GA-6

外務省

2155

秘
無期限

付属物
信渡し

タイプ指示	発信用	執務用	計
主信	/	/	2
		4の子	

昭和41年10月21日		
発信	タイプ	校査

文書課 (分類) 公信箋 (分類)

公信 米北 第 1375 号 公信 昭和41年10月21日 日付

大 臣	主 管	起案 昭和41年10月20日
政務次官	北米局長	
事務次官	参事官	
外務審議官	主任 北米課長	起案者 森山 電話番号 671
官 房 長		

受信者	発信者
花米 武田 大使	松本 大臣

写送付先	(希望発送日)
	10月21日

件 名
沖縄に關する日米10国協議委員会に關して

GA-2

21 103 務省

回覧番号

米北元1375号

昭和41年10月21日

在米大使殿

外務大臣

沖縄に関する10国協議委員会

について

文脈中1634号に関する

1. 沖縄に関する日米協議委員会中10国会合は既報のとおり、10月18日外務省で開催された。

出席者及び議題は別添1.及び2.のとおり。

2. 討議は議長団×E(別添3.)に従い進められた。

議題への入り方、まず森総務長官の新案の挨拶

GA-4

外務省

(挨拶文別添4.)があり、議題1.の来会計年度通常

予算に対する日本政府援助額を10,045,789,920円(通常

援助9,291百万円+災害復興特別援助1,054百万円)とし、

且つ、来会計年度予算に支出する災害復興特別援助として

5億4千万円の支出方針に同意の半側提案があった。同

提案に対する森総務長官発言は別添5.のとおり。

議題2.の船舶種別問題については議長団×Eの

内容を本大臣より発言し、(その際半側に披露した新船舶

種別提案別添6.)に対し、半側より、本件は船舶

種別問題と包含しているため現在検討中であり、今後

も引き続き検討する旨の発言があった。同半側発言に

対し森長官の発言文は別添7.である。

3. 会談終了後の新聞発表は別添8.のとおりであった。

なお、我方の提出した新船舶種別提案は公表しないこと

合意した。付属空便(行)

GA-4

外務省